

平成 24 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」（共同利用型）
成果報告

「帝政末期ロシアのトルキスタン開発政策について―土地整理農業総局の活動を中心に―」

塩谷哲史（筑波大学人文社会系・助教）

本研究は帝政末期ストルィピン農業改革の推進機関であった土地整理農業総局のアムダリヤ流域およびトルキスタンの開発政策のあり方を解明し、帝政期からソ連期にかけての中央アジアの開発政策の連続性、不連続性を検証する将来的な作業の予備考察を行うことが目的であった。

スラブ研究センター滞在中、北海道大学図書館に所蔵される国家ドゥーマの『速記録 *стенографические отчеты*』を利用して、土地整理農業総局から提出されたトルキスタン開発政策に関わる諸法案の審議過程を検討した。また同センター図書室に所蔵される『植民の諸問題 *Вопросы колонизации*』誌、さらに「19 世紀末-20 世紀初頭の中央アジア新聞集成」コレクション所収諸誌（とりわけ『テルジュマン』など）の記事を閲覧し、帝政ロシア政府官僚のみならず、現地ムスリムの当開発政策に対する論理や見解を知ることができた。

なお、本研究の内容に関する二つの論文をまとめることができた。1913 年から、帝政ロシアの保護国であったヒヴァ・ハン国（1511//12-1920 年）領内において行われた企業家主体の灌漑開発計画を扱った論考（「ハンと企業家―ラウザーン荘の成立と終焉 1913-1915―」『東洋史研究』71-3、2012 年、58-84 頁）およびその計画と土地整理農業総局主導のトルキスタン開発政策との関係を扱った論考（「帝政末期アムダリヤ流域の灌漑利権問題に関する一考察―ラウザーン荘設立をめぐるロシア＝ヒヴァ・ハン国関係の変遷、1913-1915 年―」『メトロポリタン史学』8、2012 年、107-129 頁）である。

末筆ながら、センターおよび図書室のスタッフの方々に厚く御礼を申し上げます。